

稲作情報 9号

令和3年7月21日
JA新みやぎ 栗っこ地区本部

1. 水稻の生育状況と出穂予想

7月9日現在、ひとめぼれの生育は、草丈 58.2 cm(平年比 95.0%)、茎数 513.8 本/m²(平年比 98.6%)、葉齢 10.1 葉(平年差 -0.6 葉)、葉色 38.8(平年差 -2.1)の状態にあります。

気温が高く推移したため概ね平年並みの生育経過です。ひとめぼれの幼穂長は平均で 2.5 mmに達し、幼穂形成期(およそ出穂前 25 日~20 日頃)に入りました。

今後の気象経過しだいではありますが、管内ひとめぼれの出穂期は8月1日頃になることが見込まれます。田植え時期の早晚、地帯別(平坦部・丘陵部・山間部)、品種特性などにより出穂状況に差が生じますので、生育状態に合わせた適切な栽培管理をお願いします。

品種	田植日	草丈	茎数		葉齢	葉色	幼穂長
			1株当り	m ² 当り			
ひとめぼれ	5月18日	55.7 cm	20.4 本	332.5 本	10.0 葉	41.4	1.0 mm
	5月11日	60.6 cm	38.4 本	695.0 本	10.2 葉	36.1	4.0 mm
平均	5月14日	58.2 cm	29.4 本	513.8 本	10.1 葉	38.8	2.5 mm
平年比	—	95.0%	95.0%	98.6%	-0.6 葉	-2.1	±0.0 mm
つや姫	5月22日	57.5 cm	28.7 本	436.2 本	9.9 葉	45.1	0.0 mm
平年比	—	91.8%	103.8%	89.1%	-0.5 葉	+3.9	-0.1 mm
東北 194 号	5月13日	63.9 cm	28.6 本	577.7 本	10.1 葉	42.0	2.0 mm
平年比	—	100.9%	99.9%	108.1%	-0.6 葉	+0.8	-0.1 mm
萌えみのり	5月23日	59.9 cm	23.7 本	386.3 本	10.1 葉	47.8	0.0 mm
	5月10日	63.6 cm	37.4 本	594.7 本	11.0 葉	45.9	3.0 mm
	5月5日	65.1 cm	32.5 本	607.8 本	10.8 葉	43.8	8.0 mm
	5月15日	67.6 cm	34.9 本	663.1 本	10.5 葉	42.6	4.0 mm
	5月9日	62.7 cm	43.4 本	781.2 本	11.7 葉	41.5	10.0 mm
平均	5月12日	63.8 cm	34.4 本	606.6 本	10.8 葉	44.3	6.3 mm
平年比	—	102.7%	107.6%	104.6%	±0.0 葉	+2.1	+2.6 mm

2. 今後の管理

1) 追肥(穂肥)・・・極端な葉色低下を避けるため追肥を行いましょ

梅雨明け後の高温経過によって葉色の低下が心配されます。葉色が低下すると玄米品質に悪影響を及ぼす可能性がありますので、生育状態を確認して適切な追肥を行いましょ。品種ごとの追肥窒素量は下表を参考としてください。**環境保全米は化学態窒素の上限がありますので追肥窒素量にご注意願います。(栽培期間中の化学態窒素 3.5kg/10a 以内)**

・品種ごとの追肥窒素量 (kg/10a)

品種	幼穂形成期	減数分裂期
ひとめぼれ	1kg	1kg
ササニシキ	—	1~1.5kg
東北 194 号	1kg	1kg
萌えみのり	2kg	—
ゆみあずさ	2kg	—
つきあかり	1kg	1kg
つや姫	2kg	—
だて正夢	—	2kg
金のいぶき	1kg	1kg
みやこがねもち	—	1kg

「萌えみのり」「ゆみあずさ」「つきあかり」等の多収品種
適期の追肥が安定多収に結びつきます。反収アップで10あたりの所得向上を目指しましょ。

「だて正夢」
幼穂形成期 2kg の追肥を基本としますが、茎数が不足する場合は幼穂形成期 1kg+減数分裂期 1kg とします。ひとめぼれ等の他の品種より茎数が少なく、葉色が濃くなる傾向にあります。

「金のいぶき」
幼穂形成期 1kg+減数分裂期 1kg の追肥を基本とします。ひとめぼれと比較して葉色が淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて著しく低下します。追肥により安定収量を確保しましょ。

2) 穂ばらみ期の水管理

穂ばらみ期から出穂開花期前後は水の吸収量が最も多い時期です。この時期に水不足になると幼穂の発育や開花受精が妨げられて減収の原因となるので、幼穂形成期から出穂開花期までの水管理は低温時を除き間断灌水を行いません。

3) 出穂後の水管理と適期落水の時期

出穂後は白未熟粒（心白・腹白等）等の高温障害を回避するため、高温経過（猛暑）時には間断灌水等により土壌を常に湿潤状態に保つ飽水管理を行います。落水時期を早くすると白未熟粒（心白・腹白等）の発生によって整粒歩合が低下する原因になります。ほ場が整備され排水性が良好な水田では落水時期を出穂後 30 日以降とし、根の働きを維持することで玄米品質の向上を図ります。

農作物生産流通対策事業による水管理の重点地域では、出穂前後 25 日間の湛水管理をお願いします。

4) いもち病防除対策

葉いもちの初発が平年より早く確認されました。主食用米・WCS・飼料用米ともに水田をよく見回り、病斑が確認された場合は直ちに防除を行いましょう。

環境保全米の生産ほ場で、いもち病の薬剤使用をご検討の場合は、営農センターにご相談ください。

・いもち病の主な薬剤（一例）【令和 3 年度宮城県農作物病害虫・雑草防除指針より抜粋】※最新の登録情報を確認してください。

	薬剤名称	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
水面施用剤	コラトップ 1 キロ粒剤 12	1~1.5kg/10a	葉いもちに対しては初発 10 日前~初発時	散布	2 回以内
		1kg/10a	穂いもちに対しては出穂 30 日前~5 日前まで	無人航空機による散布	
	コラトップジャンボ P	小包装(パック)10~13 個 (500~650g)/10a	葉いもちに対しては初発 20 日前~初発時 穂いもちに対しては出穂 30 日前~5 日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	2 回以内
	フジワン 1 キロ粒剤	1~1.5kg/10a	葉いもちに対しては初発 7~10 日前	湛水散布 無人ヘリコプターによる散布	2 回以内
			穂いもちに対しては出穂 10~30 日前 但し、収穫 30 日前まで		
フジワンパック	小包装(パック)10~15 個 (750~1125g)/10a	葉いもちに対しては初発 7~10 日前 穂いもちに対しては出穂 10~30 日前 但し、収穫 14 日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	2 回以内	
茎葉散布剤	ブラシン粉剤 DL	3~4kg/10a	収穫 7 日前まで	散布	2 回以内
	ブラシンフロアブル	1000 倍 60~150 リットル/10a	収穫 7 日前まで	散布	2 回以内
	ブラシンゾル	8 倍 0.8 リットル/10a	収穫 7 日前まで	空中散布	2 回以内
				無人ヘリコプターによる散布	
	ビーム粉剤 DL	3~4kg/10a	収穫 7 日前まで	散布	3 回以内
	ビームゾル	1000 倍	収穫 7 日前まで	散布	3 回以内
		6~8 倍 0.8 リットル/10a		空中散布	
トライフロアブル	1000 倍 60~150 リットル/10a	収穫 14 日前まで	散布	2 回以内	
	8 倍 0.8 リットル/10a		無人航空機による散布		

5) 斑点米カメムシ類防除対策

7 月第 3 週に管内の水田畦畔及び牧草地でカメムシ類のすくい取り調査を実施した結果、成虫・幼虫ともに前年を大幅に超える発生量を確認しました。畦畔・農道等の草刈りは出穂の 10 日前（遅くとも 7 月 25 日頃）までに終わらせましよう。出穂直前の草刈りはカメムシ類を水田に追い込むことになるので避けましよう。今年度の草刈りの自粛期間は 7 月 26 日~8 月 20 日まで の設定です。

草刈り自粛（耕種的防除）と薬剤の適期 2 回防除（出穂期とその 7~10 日後）を行いましよう。

なお、薬剤防除につきましては、農薬飛散防止に努められますようお願いいたします。

稲作に関するご相談は、最寄りの営農センターにお問い合わせください